

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	Basic Communication Training I	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
到達目標	医療人として社会で働くために必要となるコンプライアンス，身だしなみ，健康管理，タスク管理，感情管理，連絡報告相談などについて知り，日々の学校生活で意識的に実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション OTを目指すあなたへ		
2	コミュニケーションとは？ コミュニケーションと学校ルール		
3	コミュニケーションとは？ コミュニケーションとシラバス		
4	自律した自分になろう		
5	自律した自分になろう		
6	自分を理解しよう		
7	自分を理解しよう		
8	まとめ 試験（45分：持ち込み可）		

講義・実習方法

主に座学とグループワークで実施する

資料は基本紙で配布します，データでお渡しする場合にはTeamsにて配布します

講義で使用する機器・教材

パワーポイント，PC，プロジェクター

履修上の注意事項

欠席した講義の資料は自分で教員まで取りに来る・友人にコピーさせてもらうなどして，必ず全ての資料をそろえるようにしてください。

コミュニケーションに対する「指摘」は「これからなる医療職としてのコミュニケーションに不足していること」であり，みなさんを否定するものではありません，これから身に付けていきましょう。

成績評価方法

課題60%，試験40%で評定します

課題提出期限は厳守，理由なく遅れた場合は採点しません，遅れそう/遅れた場合には必ず相談下さい

教科書

PT・OTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版/医学書院

参考書

適宜配布及び指示を致します

予習復習のアドバイス

コミュニケーションが苦手な人は知識を得て冷静になれるように，得意な人は自分がいまっている

コミュニケーション技術に名付けるように，学問としてコミュニケーションを学ぶ姿勢で受講して下さい

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	触診技術実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	矢野大輔	実務経験	医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	解剖学や運動学の講義内容を踏まえて、対象者へ運動を処方するにあたり、その評価を行うための機能解剖学的触診法を身につける。				
	到達目標				
	触診を通して臨床に必要なランドマーク、体表の筋の立体構造を理解する。 学生同士においてではあるが触診方法を身につける。 課題演習を通して骨や筋の名称と部位を憶える。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	肢位、運動の面と軸・方向 姿勢、触診方法、骨の基本構造、関節	13	骨・靭帯の触診⑩－脊柱
2	骨・靭帯の触診①－肩甲骨、鎖骨	14	筋・神経・血管の触診①－肩甲上腕関節の筋
3	骨・靭帯の触診①－肩甲骨、鎖骨	15	筋・神経・血管の触診②－肩甲上腕関節の筋
4	骨・靭帯の触診②－上腕骨	16	筋・神経・血管の触診③－肩甲胸郭関節の筋
5	骨・靭帯の触診③－橈骨、尺骨	17	筋・神経・血管の触診④－肘関節の筋
6	骨・靭帯の触診③－橈骨、尺骨	18	筋・神経・血管の触診⑤－手関節、手指の筋
7	骨・靭帯の触診④－手根骨、指骨	19	筋・神経・血管の触診⑥－手関節、手指の筋
8	骨・靭帯の触診⑤－骨盤	20	筋・神経・血管の触診⑦－股関節の筋
9	骨・靭帯の触診⑥－大腿骨 スカルパ三角	21	筋・神経・血管の触診⑧－膝関節の筋
10	骨・靭帯の触診⑦－膝関節周囲	22	筋・神経・血管の触診⑨－足関節の筋
11	骨・靭帯の触診⑧－足部	23	筋・神経・血管の触診⑩－足関節の筋
12	骨・靭帯の触診⑨－胸郭	24	

講義方法

座学と実技演習を交えて行う。実技の場合はTシャツ、短パン、ジャージ等の触診しやすい服装を準備すること。ジーンズやスカートなどの服装は不可（評定から減点とする）。爪を必ず切っておくこと。

成績評価方法

実技課題20%、筆記課題70%、実習態度10%を総合的に判断して評価する。

教科書

改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢、下肢・体幹

予習復習のアドバイス

相互触診は模型などの位置関係と生体における位置関係をうまく修正するように意識すること
講義においては、適宜資料を配布するので、予習・復習に役立てること

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		総時間数	60	単位数	4
講師名	矢野大輔	実務経験	医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	人体の運動メカニズムをあらゆる観点から理解し、作業療法の基礎となる知識技術を習得する				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・各関節の特徴を解剖学的・運動学的視点で理解し、説明出来る ・運動学習やその効果を理解し、説明できる ・運動学的重要性を説明でき、姿勢・運動・動作を力学的視点で説明出来る 				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	オリエンテーション 運動学とは	16	脊柱の構造と機能②		
2	関節運動と運動面・運動軸	17	脊柱の構造と機能③		
3	関節運動学・運動力学 凹凸の法則、トルク	18	股関節の構造と機能①		
4	ニュートン運動法則・生体力学的てこ ベクトル	19	股関節の構造と機能②		
5	姿勢、重心、支持基底面 力と速度、加速度、仕事	20	膝関節の構造と機能①		
6	関節の構造と機能	21	膝関節の構造と機能②		
7	骨格筋の構造と機能	22	足関節の構造と機能①		
8	肩複合体の構造と機能①	23	足関節の構造と機能②		
9	肩複合体の構造と機能②	24	寝返り～座位の姿勢と動作		
10	肘・前腕複合体の構造と機能①	25	立ち上がり～立位の姿勢と動作		
11	肘・前腕複合体の構造と機能②	26	歩行の基礎知識①		
12	手関節の構造と機能	27	歩行の基礎知識②		
13	手の構造と機能①	28	歩行の基礎知識③		
14	手の構造と機能②	29	咀嚼と換気のキネシオロジー		
15	脊柱の構造と機能①	30	運動学習		

講義方法

基本的には座学の授業となります。教科書と配布プリントを使用して進めますので配布資料はファイリングして講義に持参してください。

成績評価方法

課題評定、試験（前期中間・期末、後期中間・期末）で評定します。試験毎に再試験を行います。
※通年の科目であるので、前期・後期合算平均で、総合評定します。

教科書 エッセンシャルキネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床 第3版 南江堂

参考書

宮本省三 他 筆 「人間の運動学」 協同医書出版

Kirsten Gotz-Neumann 「観察による歩行分析」 医学書院

予習復習のアドバイス

自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか質問に来てください。解剖学・生理学の基礎的な知識を踏まえての学習になりますので、復習を怠らず進めてください。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間発達学（老年医学含む）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	上遠野純子	実務経験	上遠野：医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	ライフステージ（胎児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期）を通じた人間理解のために、それぞれの発達過程を学ぶ。				
	到達目標				
	I. 胎生期における発達過程について理解する。 ①受精メカニズム②機能・形態的变化について説明できる。				
	II. 乳児期、幼児期、児童期における発達過程について理解する。 ①運動発達②認知発達③言語発達④ADL⑤社会性（対人関係）について説明できる。				
	III. 青年期、成人期、老年期における発達過程について理解する。 ①身体構造の変化②生理機能の変化③心理・社会的変化について説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	発達とは 人が発達していくことの理解	11	発達と個人差
2	ライフステージ、発達の原則	12	老年期の発達と成熟 老化とは
3	発達の原則 スカモンの発達曲線	13	老年期の発達と成熟 老化が及ぼす心理的影響
4	生理的発達を理解する	14	老年期の発達と成熟 老いの価値観・受容
5	心理的な発達を理解する 乳児期の発達段階と発達課題	15	老年期の発達と成熟 サクセスフル・エイジング
6	乳児期の発達段階と発達課題		
7	幼児期の発達段階と発達課題		
8	児童期の発達段階と発達課題		
9	青年期の発達段階と発達課題		
10	成人期の発達段階と発達課題		

講義方法

教科書、資料を用いて行う。

履修上の注意事項

- ・ 講義資料を適宜、ファイルに閉じる。
- ・ 講義内容を聞き取りノートを作成下さい。

成績評価方法

試験・課題にて総合的に評価を行う

教科書・参考書

岩崎清隆 執筆 “人間発達学”第2版 標準理学療法学・作業療法学 医学書院

講義要項（シラバス）

年 度	2022 年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	リハビリテーション概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	藤井貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年、 福祉機関（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標 リハビリテーションを正しく理解する。正しい知識を持ち医療・保険・福祉領域の現状を把握する。各専門職の役割・業務内容を知る。				
	到達目標 学生がリハビリテーションの理念を理解できる。 学生がリハビリテーションを構成している諸領域や役割を理解している。 学生がICFの概念を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	リハビリテーションの定義・歴史 理学療法士および作業療法士法	11	障害受容 ① ～分類～
2	リハビリテーション介入の流れ ～病気と障害 / 急性期・回復期・維持期～	12	社会参加を支える制度 ① ～障害者基本法～
3	リハビリテーション関連職種とその役割 チームアプローチ・リハ手段	13	参加制約へのアプローチ ～家族と家庭～
4	評価会議とゴール設定 ①	14	総合リハビリテーション
5	評価会議とゴール設定 ②	15	リハビリテーション諸相 ～医学的・教育的・職業的・社会的・地域～
6	国際疾病分類 (ICD)		
7	国際生活機能分類 (ICF) ①		
8	国際生活機能分類 (ICF) ②		
9	ノーマライゼーション バリアフリー、QOL		
10	クリニカルパス		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

試験（100％）で成績を評価する。また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評価できない。

授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせてファイルチェックを行います。（評定に含めます。）

講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

教科書

「入門リハビリテーション概論」第7版増補（「よくわかるリハビリテーション」）

参考書**予習復習のアドバイス**

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

講義要項（シラバス）

年 度	2022 年度	時 期	前期	学年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
到達目標	作業療法実践を知ることの中で、生活と作業との関係や作業療法士の役割を理解する。領域別・病期別の作業療法過程を学び、リハビリテーションにおける作業療法の位置づけを理解する。また、職業人として職業倫理を高める。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 作業療法にとっての「作業」の意味	11	作業療法の実際 (精神科領域)
2	作業療法とは (目的・対象・治療手段)	12	作業療法部門の管理運営 関連法規
3	生活と作業① (ライフサイクルと環境)	13	職業人としての倫理 職能組織としての活動（生涯教育）
4	生活と作業② (健康とは)	14	多職種連携によるチームアプローチ
5	作業療法の歴史 (日本の作業療法の歴史、現状と課題)	15	作業の治療的意味 作業療法理論
6	作業療法の実際 (医療領域～急性期)		
7	作業療法の実際 (医療領域～回復期)		
8	作業療法の実際 (福祉領域)		
9	作業療法の実際 教育支援領域		
10	作業療法の実際 (生活期～終末期)		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料を配布する。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター

履修上の注意事項

特になし

成績評価方法

学期末試験（70％）や出席率（20％）と併せて、課題（10％）によって成績を評価する
また適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする

教科書

標準作業療法学 作業療法学概論第4版 医学書院

参考書

特に指定しない。

予習復習のアドバイス

事前に教科書を読んで、予習をすること。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法理論	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
到達目標	作業療法の専門性を改めて見出すために開発された各種作業療法理論、モデル、ツールの位置づけを理解した上で、その実践的応用を学ぶ				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	作業療法の基本原理と目的 作業療法における理論とは何か	5	感覚統合		
2	MTDLP	6	発達理論		
3	COPM	7	代償的補装具的アプローチ		
4	生体力学・運動制御的アプローチ	8	集団理論的(対人関係技術) アプローチ		
講義・実習方法 主に座学講義・グループワークにて実施する。					
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター					
履修上の注意事項 話している内容をメモするように心がけて受講してください。 聞き洩らしたことや書ききれなかったことは必ず後に確認をしてください。 〈紙資料配布の場合〉欠席等で資料がない場合は、担当教員まで取りに来る、他学生からコピーさせてもらう等して、必ず資料は揃えておいてください					
成績評価方法 課題50%、期末試験50%にて評定する。					
教科書 作業で語る事例報告 作業療法レジメの書きかた・考えかた 医学書院					
参考書 標準作業療法専門分野 基礎作業学 第3版/医学書院 標準作業療法専門分野 作業療法概論第4版/医学書院					

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎作業学概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年、介護施設2年、訪問地域作業療法領域10年、作業療法士として勤務		
到達目標	人の暮らしの中にある作業とは何かを定義と分類に沿って説明することができ、何故作業療法が作業を取り扱うのかを説明できる。作業を分析する枠組みについて説明することができる。				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	オリエンテーション 人間と作業 p 4～9	5	ライフステージと作業 p174～200		
2	作業の種類と分類 意味・形態・機能 p19～22	6	分析の視点（運動機能）		
3	作業と道具・環境 個人因子 p26	7	分析の視点（心理機能）		
4	実践紹介	8	作業を捉える枠組み 工程分析・包括的作業分析		
講義・実習方法					
主に座学講義・グループワークにて実施する。					
講義で使用する機器・教材					
PC、プロジェクター					
履修上の注意事項					
話している内容をメモするように心がけて受講してください。 聞き洩らしたことや書ききれなかったことは必ず後に確認をしてください。 〈紙資料配布の場合〉欠席等で資料がない場合は、担当教員まで取りに来る、他学生からコピーさせてもらう等して、必ず資料は揃えておいてください					
成績評価方法					
課題50%、期末試験50%にて評定する。ただし、遠隔講義の導入割合によって、課題評定の割合が増加する可能性があるため、課題の提出期限と内容に注意してください。					
教科書					
基礎作業学 第3版/医学書院					
参考書					
適宜指示、配布を致します					
予習復習のアドバイス					
講義開始前に講義資料を一読し、わからない単語にマークをつけ、講義を集中して聞くポイントとする予習がおすすめです。わからないことは必ず担当教員にできるだけ早く確認を。 (後回しにすると、わからないところもわからなくなります)					

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎作業学実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	酒井良隆 佐藤秀美	実務経験	酒井：医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務 佐藤：医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標 * 主要な作業の作業分析、活動分析、作業遂行分析が行える				
	到達目標 * 主要な作業についての手順が説明できる * 作業療法で利用される作業活動を経験し、特性や人・環境との影響も説明できる				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	オリエンテーション 科目で学ぶこと	11	〈ADL2〉 食事② 食形態による動作の違い		
2	〈Leisure1〉 革細工① キーホルダー	12	〈ADL3〉 起居動作① 寝返り～起き上がり～座位		
3	〈Leisure1〉 革細工② キーホルダー	13	〈ADL3〉 起居動作② 立ち上がり～立位～歩行		
4	〈Leisure2〉 革細工③ キーホルダー	14	〈Leisure3〉 散歩① 計画立案		
5	〈Leisure2〉 紙細工① ちぎり絵	15	〈Leisure3〉 散歩② 計画実施		
6	〈Leisure3〉 紙細工② ちぎり絵	16	〈Leisure3〉 散歩③ 計画実施・振り返り		
7	〈Leisure4〉 紙細工③ ちぎり絵	17	〈Work1〉 職業調べ① 発表		
8	〈ADL1〉 更衣① 上衣	18	〈Work2〉 職業調べ② 発表		
9	〈ADL1〉 更衣② 下衣	19	〈ADL4〉 トイレ① 洋式トイレ		
10	〈ADL2〉 食事① 箸・フォーク・スプーンでの動作の違い	20	〈ADL4〉 トイレ① 福祉用具		
		21	〈Work2〉 調理① 計画立案		
		22	〈Work2〉 調理② 計画実施		
		23	〈Work2〉 調理③ 計画実施・分析		

講義方法

実技と講義形式を混合して行います

講義で使用する機器・教材

ハンドアウト（適宜配布する）、PC、プロジェクター

iPadは毎回持参すること

履修上の注意事項

時間内に課題を終了できるよう、集中して取り組むこと

周囲への配慮をしながらケガのないよう安全に実習をする事を留意する

物品の整理整頓をすること 実習室（教室）の清掃を全員で実施すること

グループワークの多い講義となっているため、欠席することによるグループワークの進行やグループメンバーへ与える影響をよく考えること

成績評価方法

作業課題と分析（100%）・授業態度（減点方式）にて評価する。

また、出席時数が授業時数の2/3に達しない場合、成績評価できない。

教科書

標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院

参考書

作業-その治療的応用 日本作業療法士協会編集 協同医書出版社

予習復習のアドバイス

・配布資料は必ずファイリングする。適宜グループのメンバーと意見交換をすること。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法特論 I（国試対策）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔 淀川裕美	実務経験	矢野：医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務 淀川：リハ専門病院3年、介護施設2年、訪問地域作業療法領域10年、作業療法士として勤務		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学、生理学の基礎科目について、理解度の補強を図る ・国家試験の概要を理解することから、現在の学習内容の必要性を理解する ・自身の学習方法と学習習慣を確立することができる ・年度末の医歯薬基礎三科目模試で35点以上をとる 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション①細胞・発生	11	小テスト 復習
2	②骨格系	12	⑦消化器
3	小テスト 復習	13	小テスト 復習
4	③筋系	14	⑧生殖器・免疫・体温
5	小テスト 復習	15	小テスト 復習
6	④体液・血液		
7	小テスト 復習		
8	⑤循環器		
9	小テスト 復習		
10	⑥呼吸		

講義方法

- ・解剖学、生理学の講義の進捗に合わせて勉強範囲を提示します。

小テストを実施し学習状況のチェックを行い、学習の習慣化を図ります。

講義で使用する機器・教材

PC プロジェクター

履修上の注意事項

- ・学習方法の確立を目指して、様々な方法を試すこともあります。自分に最も合っている方法を見つけましょう。
- ・「勉強することは、特別な事」からの脱却を図りましょう。「当たり前の事」ですから。
- ・当たり前に勉強することが、習慣化され、「やらないと気持ち悪いもの」になることを目指しましょう。

成績評価方法

小テストの平均点数（%）,授業態度,出席の総合評価で評価します

教科書

PT・OT国家試験共通問題 できるもんでたもん 【基礎医学】 第2版 医学書院

参考書

適宜指示、配布を致します

予習復習のアドバイス

基礎となる解剖、運動、生理が理解されることで、専門科目の理解に繋がります。ペース配分を考えて計画的に取り組みましょう

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎検査測定実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	矢野大輔 佐藤秀美 藤井貴	実務経験	矢野：医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務 佐藤：医療機関(病院・訪問) 9年1か月勤務 藤井：医療機関（病院・訪問）7年、福祉機関（通所介護）7年、作業療法として勤務		
講義目標	一般目標				
	作業療法分野における測定・評価方法（形態測定・感覚・深部健反射・上肢機能検査・ROM・MMT・バランス評価・協調性検査）を正しく理解する				
	到達目標				
	①対象者へのプログラム立案および目標設定の際の重要な情報の一つとして認識する ②対象者の身体状況を可能な限り客観的に抽出し、的確に測定・評価を行い、臨床実習および治療にいかせる知識を修得する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション バイタル測定	11	協調性検査①講義 上肢・下肢
2	形態測定 講義・実技 四肢長・周径	12	協調性検査②実技 上肢・下肢
3	反射検査①講義 深部反射・表在反射・病的反射	13	感覚検査①講義 表在・深部
4	反射検査②実技 深部反射・表在反射・病的反射	14	感覚検査②実技 表在・深部
5	ROM測定①講義・実技 総論・上肢（肩関節）	15	MMT測定①講義 総論・肩関節
6	ROM測定②講義・実技 上肢（肩関節・肘関節）	16	MMT測定②実技 肩関節・肘関節
7	ROM測定③講義・実技 上肢（前腕・手関節）	17	MMT測定③講義・実技 肘関節・前腕・手関節
8	ROM測定④講義・実技 下肢（股関節）	18	MMT測定④実技 股関節
9	ROM測定⑤講義・実技 下肢（股関節・膝関節）	19	MMT測定⑤実技 膝関節
10	ROM測定⑥講義・実技 下肢（膝関節・足関節）	20	MMT測定⑥実技 足関節

21	バランス検査①講義 立ち直り・平衡反応
22	バランス検査②実技 立ち直り・平衡反応
23	上肢機能検査 STEF

講義方法

講義形式の授業で基礎知識を理解する。実技を通して的確に測定・評価を行えるようにする。

講義で使用する機器・教材

教科書 プリント 骨・筋標本

履修上の注意事項

実技演習の際は積極的に体験するように努める事

実習着（ケーシー）着用、臨床実習相応の身なりに整える（不十分な場合は適宜、指導を行う）

成績評価方法

実技テスト80%（前半40%、後半40%）

筆記試験20%

教科書

作業療法評価学、PT・OTのための測定評価（ROM測定・形態測定・反射検査）、新徒手筋力検査法

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

予習復習のアドバイス

授業で配布されたプリント資料などを内容別に整理ファイリングして、後日利用できるようにすること
講義開始時に前回分の実技内容の確認を行うので、復習練習しておくこと

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	日常生活活動実習 I	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
到達目標	①日常生活活動・手段的日常生活動作の概念について説明できる ②日常生活活動・手段的日常生活動作の評価について説明できる				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	はじめに本講で行うこと・ADLとは	11	整容		
2	ADLの領域と評価	12	排泄		
3	ADL・IADLの評価	13	排泄		
4	ADL各論について	14	入浴		
5	起居	15	入浴		
6	食事	16	家事 調理		
7	食事	17	家事 掃除等		
8	更衣	18	家事 その他		
9	更衣	19	育児		
10	整容	20	ADLにおけるOT支援（P24）		
		21	ADLと福祉用具		
		22	ADL関連制度		
		23	まとめ		

講義・実習方法

講義形式と実技の演習にて本講を実施致します。2021年度においては講義を先行し、演習は後半に行うこととします。

講義で使用する機器・教材

I P a dは必ず持参して下さい。

履修上の注意事項

上記の教科書に加えて、授業資料を提示します。Online授業ではteamsにて提示しダウンロードが可能であるようにします

成績評価方法

筆記試験を80%とし、出席及び実技(演習)状況を20%で評定に加味します

教科書

教科書：作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト日常生活活動(ADL)

授業資料：PDFデータで配布

参考書

適宜指定および配布を致します

予習復習のアドバイス

その都度、実施した内容を振り返り、週内に不明な点は解決できるよう努めましょう！

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	日常生活活動実習Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年、介護施設2年、訪問地域作業療法領域10年、作業療法士として勤務		
到達目標	①ライフサイクル別の日常生活活動・手段的日常生活動作の概念について説明できる ②ライフサイクル別の日常生活活動・手段的日常生活動作の違いや特徴、疾患における影響について説明できる				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	ADLにおける作業療法支援法	11	ライフサイクルとADL②学童期		
2	ADLと福祉用具①P28～53	12	ライフサイクルとADL②学童期		
3	ADLと福祉用具②P28～53	13	ライフサイクルとADL③青年期		
4	作業療法における福祉用具 P54	14	ライフサイクルとADL③青年期		
5	ADLの関連制度 P61	15	ライフサイクルとADL③青年期		
6	住環境と福祉用具におけるADL支援	16	ライフサイクルとADL④成人期		
7	ライフサイクルとADL①乳児～幼児	17	ライフサイクルとADL④成人期		
8	ライフサイクルとADL①乳児～幼児	18	ライフサイクルとADL④成人期		
9	ライフサイクルとADL①乳児～幼児	19	ライフサイクルとADL⑤老年期		
10	ライフサイクルとADL②学童期	20	ライフサイクルとADL⑤老年期		
		21	ライフサイクルとADL⑤老年期		
		22	生涯を通じたADL		
		23	まとめ		

講義・実習方法

講義形式と実技の演習にて本講を実施致します。2022年度においては講義を先行し、演習は後半に行うこととします。

講義で使用する機器・教材

授業資料：PDFデータで配布

履修上の注意事項

上記の教科書に加えて、授業資料を提示します。Online授業ではteamsにて提示しダウンロード可能とします

実習着着用の場合は事前に指示をします。（指示がない通常は実習着の着用は不要です）

成績評価方法

筆記試験を80%とし、出席及び実技(演習)状況を20%で評定に加味します

教科書

教科書：作業療法学 ゴールト・マスター・メジカルビュー社

参考書

適宜提示します

予習復習のアドバイス

その都度、実施した内容を振り返り、週内に不明な点は解決できるよう努めましょう！

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	Basic Communication Training II	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	酒井良隆	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	社会人としてのコミュニケーションの在り方について、理解できる				
	到達目標				
	社会人としての在り方を求められる、臨床実習の場において、適切なコミュニケーションを理解することができる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 1. 挨拶は自分から、 2. 相手の領域に入るという事	5	9. 相手から話を引き出す方法（聴く技術） 10. 話を上手に切り上げる方法
2	3. コミュニケーションスキルを学ぶ前に 4. 医療面接での対話の仕方	6	11. 答えにくい質問に応じる方法 12. 否定的な話に対応する方法
3	5. 相手との関係を築く方法 6. 質問の仕方	7	13. 認知症の方とのコミュニケーション 14. 患者さんの家族とのコミュニケーション
4	7. 相手を会話に乗せる方法 8. 話題の提供のしかた	8	15. スーパーバイザーとのコミュニケーション

講義・実習方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布
グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

記憶力ではなく、感受性と理解力が重要です。
グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

授業態度も評定の対象とする。（減点方式）
プレゼンテーション（60%）、グループワーク（20%）、出席（20%）

教科書

PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版 医学書院

予習復習のアドバイス

学習した内容について、必ず「なぜ?」「どうして?」という探求心をもつてのぞむこと。
学んだことは、その日から即実践してみること。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
到達目標	実習を通して、人の運動・動作の特徴とそれに伴う諸現象を理解する。運動と動作に関して、観察・測定・分析に初歩的手段を体験し、その結果をレポートとしてまとめる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動学実習にあたって レポート作成について	11	実験③の検証
2	実験0肩関節の可動域計測のデータ整理	12	実験③のフィードバック
3	口頭試問1-① 全身の関節運動名（記憶実習）	13	演習（血圧・心拍数の測定）
4	口頭試問2-① 起き上がり動作と関節運動（記憶実習）	14	演習（血圧・心拍数の測定・データ収集）
5	口頭試問2-② 起き上がり動作と関節運動（記憶実習）	15	運動負荷試験演習① マスター階段昇降検査
6	実験① 筋力検査 肢位と最大筋力の考察	16	運動負荷試験演習② マスター階段昇降検査
7	実験② 筋力検査 標準テストと迅速テスト	17	運動負荷試験演習③ 上肢運動負荷試験（重量負荷による）
8	実験①と②の検証	18	運動負荷試験演習④ 上肢運動負荷試験（重量負荷による）
9	実験①、②のフィードバック	19	運動負荷試験演習⑤ PCIテスト
10	実験③機能的リーチテストと座位 での前方リーチテストの差異	20	運動負荷試験のフィードバック
		21	実験④ 反応時間測定
		22	実験④ 反応時間測定
		23	実験⑤ 動作のスキル

講義・実習方法

レポートの書き方、口頭試問について、実験方法等を開始前に説明しますが、後は自ら考え行動して下さい。グループでの演習や2人1組になったの演習になります。

講義で使用する機器・教材

I P a d は必ず持参して下さい。

履修上の注意事項

※解剖学・生理学・作業療法評価学、運動学の教科書を実験により使い分けます。

※口頭試問は質問に口頭で答えてもらう課題です。出来るまで何度でも行います。全問正解を求めます

※実験ごとにレポートを提出してもらいます。提出期限は指示します。提出期限から明らかに遅れる場合は相談してください。

※ケーシー型白衣を着用下さい。基本的には12階1207教室にて演習を行いますが、適宜場所を変更しますので、連絡事項を確認ください。

成績評価方法

※口頭試問とグループ発表もしくは個人レポート課題提出にて評定します。

教科書

エッセンシャルキネシオロジー 機能運動学の基礎と臨床 弓岡 光徳 溝田 勝彦 村田 伸

参考書

中村隆一 他 編集 運動学実習 第3班 医歯薬出版

鎌倉矩子 編 PT・OT学生のための運動学実習 三輪書店

基礎作業学 第3版 医学書院

予習復習のアドバイス

解剖学・生理学・骨格筋測定法・作業療法評価学・基礎作業学・運動学などの基礎となる知識を復習しながら、わかるまで、納得するまで、解決する姿勢で望むこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	関連職種連携論 I	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	リハビリテーション医療に関わる様々な職種の専門性を互いに理解した上で、対象者の目標に向かって、作業療法士の果たす役割を認識できる、				
	到達目標				
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士としての役割を全うする（Role Contribution） 2. 関係性に働きかける（Facilitation Relationship） 3. 作業療法士としての自職種を省みる（Reflection） 4. 関連する他職種を理解する（Understanding for Others） 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	多職種連携とは	5	他職種を理解する
2	リハビリテーション専門職が多職種連携を学ぶ意味	6	急性期医療における多職種連携
3	多職種連携が求められる背景	7	在宅医療における多職種連携
4	他職種を理解する	8	多職種連携コンピテンシー

講義方法 パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた対面講義形式 多職種によるチームビルディング演習等も適宜行なう
成績評価方法 小テスト、レポート等で総合評定する
教科書・参考書 特に使用しないが作業療法理論で使用した「作業で語る事例報告（作業療法レジメの書き方・考え方）医学書院」を適宜使用する
予習復習のアドバイス 授業時間内で、学修したことを意識して今後の行動に役立ててほしいと思います。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	Practical Communication Training I	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	淀川裕美 酒井良隆	実務経験	淀川：リハ専門病院3年、介護施設2年、訪問地域作業療法領域10年、作業療法士として勤務 酒井：医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤		
講義目標	一般目標				
	クライアントと信頼関係を築きながら、クライアントに合わせてコミュニケーションの様式を変化させ、クライアントから必要な情報を得ることができる				
	到達目標				
	① 自己のコミュニケーションの特性と、その特性が他者に与える影響について認識している				
	② コミュニケーションを阻害する特性については、どのように修正すべきかを考察し、それを行うための行動をとることができる				
③ クライアントの表出を引き出し、双方向の会話ができる					
④ 目的を持って会話に臨める					
⑤ 適切な態度でクライアント・スタッフと接することができる					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	13	ビデオ分析
2	知識接遇①	14	自己の特性を知る（面接の実施・観察評価）
3	知識接遇②	15	自己の特性を知る（面接の実施・観察評価）
4	自己分析	16	ビデオ分析
5	面接とは	17	ビデオ分析
6	面接の流れ	18	目的をもって会話をする（評価としての面接）
7	面接計画の作成①	19	目的をもって会話をする（評価としての面接）
8	面接計画の作成②	20	ビデオ分析
9	面接計画の作成③	21	ビデオ分析
10	自己の特性を知る（面接の実施・観察評価）	22	全体を通じた課題分析
11	自己の特性を知る（面接の実施・観察評価）	23	総括
12	ビデオ分析		

講義方法

座学・演習準備・演習・振り返り

成績評価方法

課題評価6割 面接の実施と取り組み状況4割

参考書**予習復習のアドバイス**

自己の振り返りをその都度必ず行い、行動計画に反映できるように努めましょう

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法特論Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	酒井 良隆 矢野 大輔	実務経験	酒井：医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務 矢野：医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	国家試験における合否に最も関与する基礎3科目の得点力を向上させる				
	到達目標				
	8月下旬の段階で、クラス平均得点を37点にする（2022年3月現在）				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 骨の基礎～筋の構造と機能	11	10回目の○× グループワーク 国試でチェック⑩ 循環の調節～消化器系 1
2	1回目の○× グループワーク 国試でチェック① 骨の基礎～筋の構造と機能	12	11回目の○× グループワーク 国試でチェック⑪ 循環の調節～消化器系 2
3	2回目の○× グループワーク 国試でチェック② 筋の起始と付着～手・手指の構造 1	13	12回目の○× グループワーク 国試でチェック⑫ 排泄～発生 1
4	3回目の○× グループワーク 国試でチェック③ 筋の起始と付着～手・手指の構造 2	14	13回目の○× グループワーク 国試でチェック⑬ 排泄～発生 2
5	4回目の○× グループワーク 国試でチェック④ 股関節～頭部・顔面	15	3科目模試にチャレンジ
6	5回目の○× グループワーク 国試でチェック⑤ 筋の作用～運動学習		
7	6回目の○× グループワーク 国試でチェック⑥ 神経の興奮電動～脳室		
8	7回目の○× グループワーク 国試でチェック⑦ 末梢神経～感覚一般 1		
9	8回目の○× グループワーク 国試でチェック⑧ 末梢神経～感覚一般 2		
10	9回目の○× グループワーク 国試でチェック⑨ 脳波～循環器（リンパ）		

講義・実習方法

講義、グループワーク、個人学習

講義で使用する機器・教材**履修上の注意事項****成績評価方法**

講義受講態度（10%）、グループワークへの取り組み（30%）、個人学習の状況（10%）
3科目模試の成績（50%）

教科書

特に使用しない

参考書

解剖学、生理学、運動学でを使用した教科書

予習復習のアドバイス

提示された資料の事前学習が必須

1週間で21ページが目安

講義要項（シラバス）

年 度	2022 年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法管理学 I	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	藤井貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年、福祉機関（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	医療安全のマネジメントを理解する。				
	作業療法の役割と職域、職業倫理を理解できる。				
	到達目標				
	学生が診療情報の役割と記録の基本原則が理解できる。				
学生がアクシデント、インシデント、医療過誤、ヒューマンエラーを理解できる。					
学生が情報と何かを理解できる。					
学生が作業療法の役割と職域、職業倫理を理解できる。					
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	作業療法で取り扱う情報マネジメント		5	作業療法の役割と職域①	
2	医療安全マネジメント		6	作業療法の役割と職域②	
3	作業療法業務のマネジメント①		7	作業療法士の職業倫理①	
4	作業療法業務のマネジメント②		8	作業療法士の職業倫理②	

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

試験（80%）、課題（20%）で成績を評価する。また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評
授業態度も評定の対象とする。

講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

教科書

作業療法管理学入門 医歯薬出版

参考書

標準作業療法学 身体機能作業療法治療学 第3版

標準作業療法学 作業療法評価学 第3版

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。
- ・ipadを活用し、学習効果を高める。
- ・評価実習で活用できるよう知識、技術の蓄積を行う。

講義要項（シラバス）

年 度	2022 年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法評価学概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	藤井貴	実務経験	藤井：医療機関（病院・訪問）7年、福祉機（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	作業療法について、面接・観察・検査測定の意味を理解する。				
	対象者を理解するために行うべき評価が考察できる。				
	到達目標				
	学生が作業療法の現状を知り、その中で用いられる作業療法評価の具体的内容を説明できる。				
学生が評価のために行う面接・観察・検査、測定を知ることができる。					
学生が検査などで得られた情報から今後の治療にどう役立てていくかを整理できる。					
学生が基礎知識（解剖、運動、生理）を関連付けた評価目的を理解できる。					
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	人について知る、OTの役割、病期別	5	心身機能・身体構造評価		
2	OT評価の流れ、評価項目、関連法規	6	活動・参加の評価		
3	基本的情報収集、記録・報告の意義と特徴	7	個人因子の評価		
4	面接・観察・検査測定	8	統合と解釈		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

試験（100％）で成績を評価する。また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。

授業態度も評定の対象とする。

講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

教科書

標準作業療法学 作業療法評価学第3版 医学書院、 図解作業療法技術ガイド 第4版 文光堂

参考書

作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学 1 身体障害

理学療法評価学 第4版 金原出版

リハビリテーション基礎評価学 第1版 羊土社

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

講義要項（シラバス）

年 度	2022 年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能作業療法評価学 I (中枢)	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔 佐藤秀美	実務経験	矢野：医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務 佐藤：医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標 疾患に応じた作業療法評価学を説明できる。 疾患に応じた作業療法目標を設定できる。				
	到達目標 学生が疾患に対する一般的な評価が列挙できる。 学生が疾患における作業療法評価時の注意事項を説明できる。 学生が疾患の状況に合わせた目標設定を説明できる。 学生が基礎知識（解剖、運動、生理）を関連付けた評価目的を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	中枢疾患を理解する	11	検査測定（協調性検査）
2	疾患特性とADL	12	検査測定（姿勢観察）
3	面接・観察	13	検査測定（動作分析）
4	検査測定（関節可動域/形態測定）	14	検査測定（動作分析）
5	検査測定（感覚検査）	15	統合と解釈/テストバッテリー/予防評価
6	検査測定（反射検査）	16	
7	検査測定（筋緊張検査）	17	
8	検査測定（姿勢反射/バランス）	18	
9	上肢機能検査（B r stage、MFT）	19	
10	上肢機能検査（B r stage、MFT）	20	

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。
グループ学習を行う

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。
課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。
課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。
グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

試験（100%）で成績を評価する。
授業態度も評定の対象とする。（減点方式）
また適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする。

教科書

標準作業療法学 作業療法評価学第3版 医学書院、 図解作業療法技術ガイド 第3版 文光堂

参考書

標準作業療法学 身体機能作業療法治療学 第3版
理学療法評価学 第4版 金原出版
リハビリテーション基礎評価学 第1版 羊土社

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。
- ・ipadを活用し、実技風景を録画するなど学習効果を高める努力をすること。
- ・評価実習で活用できるよう学んだ知識、技術の整理を心掛けること。

講義要項（シラバス）

年 度	2022 年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能作業療法評価学Ⅱ (整形)	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔 佐藤秀美	実務経験	矢野：医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務 佐藤：医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標 疾患に応じた作業療法評価学を説明できる。 疾患に応じた作業療法目標を設定できる。				
	到達目標 学生が疾患に対する一般的な評価が列挙できる。 学生が疾患における作業療法評価時の注意事項を説明できる。 学生が疾患の状況に合わせた目標設定を説明できる。 学生が基礎知識（解剖、運動、生理）を関連付けた評価目的を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	脊髄損傷を理解する	11	関節リウマチを理解する
2	脊髄損傷のADL	12	関節リウマチのADL
3	脊髄損傷の評価①	13	関節リウマチの評価
4	脊髄損傷の評価②	14	画像評価①
5	骨折を理解する	15	画像評価②
6	骨折のADL	16	
7	骨折の評価	17	
8	末梢神経疾患/慢性疼痛を理解する	18	
9	末梢神経疾患/慢性疼痛のADL	19	
10	末梢神経疾患/慢性疼痛の評価	20	

講義方法

教科書、スライドを使用しながら座学と実技を織り交ぜて実施する。また、適宜、資料としてプリントを
ので、ファイリングして持参すること。

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物、各検査器具

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題は評価対象となる為、必ず提出すること。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ること。

グループワークでは積極的な意見交換を意識すること

成績評価方法

試験（100%）で成績を評価する。

授業態度も評定の対象とする。（減点方式）

また課題の取り組み内容も評定する。

教科書

標準作業療法学 作業療法評価学第3版 医学書院、 図解作業療法技術ガイド 第3版 文光堂

参考書

標準作業療法学 身体機能作業療法治療学 第3版

理学療法評価学 第4版 金原出版

リハビリテーション基礎評価学 第1版 羊土社

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。
- ・ipadを活用し、実技風景を録画するなど学習効果を高める努力をすること。
- ・評価実習で活用できるよう学んだ知識、技術の整理を心掛けること

講義要項（シラバス）

年 度	2022 年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能作業療法評価学Ⅲ (内部)	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	2
講師名	矢野大輔 佐藤秀美	実務経験	矢野：医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務 佐藤：医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標 疾患に応じた作業療法評価学を説明できる。 疾患に応じた作業療法目標を設定できる。				
	到達目標 学生が疾患に対する一般的な評価が列挙できる。 学生が疾患における作業療法評価時の注意事項を説明できる。 学生が疾患の状況に合わせた目標設定を説明できる。 学生が基礎知識（解剖、運動、生理）を関連付けた評価目的を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	心疾患を理解する		
2	心疾患の評価		
3	呼吸器疾患を理解する		
4	呼吸器疾患の評価		
5	代謝疾患を理解する		
6	代謝疾患の評価		
7	悪性腫瘍を理解する		
8	悪性腫瘍の評価		

講義方法

教科書、スライドを使用しながら座学と実技を織り交ぜて実施する。また適宜、資料としてプリントを配
グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物、各検査器具

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ること

グループワークでの意見交換を意識すること。

成績評価方法

試験（100%）で成績を評価する。

授業態度も評定の対象とする。（減点方式）

また課題の取り組み内容も評定する。

教科書

標準作業療法学 作業療法評価学第3版 医学書院、 図解作業療法技術ガイド 第3版 文光堂

参考書

標準作業療法学 身体機能作業療法治療学 第3版

理学療法評価学 第4版 金原出版

リハビリテーション基礎評価学 第1版 羊土社

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。
- ・ipadを活用し、学習効果を高める。
- ・評価実習で活用できるよう知識、技術の蓄積を行う。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	高次脳機能作業療法評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	高次脳機能障害の評価指標の臨床活用について学ぶ				
	到達目標				
	作業療法士が援助する高次脳機能障害者に対する評価の考え方と実践方法を身につけ、臨床実習や卒後業務に生かすことができる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	高次脳機能障害の基礎知識 ～高次脳機能とは？脳の障害部位と症状の関連～	9	高次脳機能障害 注意障害②～検査と評価～
2	失語症 失語症①～失語症とは～	10	高次脳機能障害 半側空間無視①～半側空間無視とは～
3	認知障害 失語症②～検査と評価～	11	高次脳機能障害 半側空間無視②～検査と評価～
4	認知障害 失行①～失行とは～	12	高次脳機能障害 記憶障害①～記憶障害とは～
5	認知障害 失行②～検査と評価～	13	高次脳機能障害 記憶障害②～検査と評価～
6	認知障害 失認①～失認とは～	14	前頭葉障害等 遂行機能障害・前頭葉症状～遂行機能障害・前頭葉症状とは～
7	認知障害 失認②～検査と評価～	15	脳画像の診方 脳画像の種類等の理解、全体のまとめ
8	高次脳機能障害 注意障害①～注意障害とは～		

講義方法

座学講義形式

成績評価方法

試験点数を100%で評定します

教科書 参考書

作業療法学全書 改定第3版 第8巻 作業療法治療学5 高次脳機能障害 協同医書出版社

項目ごとに授業資料があります、onedriveにアップするためその都度ダウンロードをお願い致します

予習復習のアドバイス

講義当日中に当該項目が理解されているかを振り返りましょう！

予習を行う場合は、教科書を何度も読むことをお勧めします

講義要項（シラバス）

年 度	2022 年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	精神機能作業療法評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	酒井良隆	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標 精神障害領域における作業療法について、その実践過程を理解する。 様々な評価手段とその手順を習得し、目標設定を行うことが出来る。				
	到達目標 精神機能作業療法における、様々な評価手段について理解する。 作業療法における、基本的な視点と方法について理解する。 精神障害作業療法における、歴史的背景を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	作業療法における評価とは	11	作業面接について
2	精神機能作業療法における評価①	12	集団とその治療的応用①
3	精神機能作業療法における評価②	13	集団とその治療的応用②
4	ライフサイクルと生活課題①	14	自己分析①
5	ライフサイクルと生活課題②	15	自己分析②
6	精神機能作業療法の歴史的背景（世界編）		
7	精神機能作業療法の歴史的背景（日本編）		
8	作業・作業活動を介した回復支援		
9	作業・作業活動を介した生活支援		
10	観察について		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

試験（100%）で成績を評価する。また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評価できない。

授業態度も評定の対象とする。（減点方式）

また適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする。

教科書

標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版 医学書院

参考書

作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学 協同医書出版

精神障害と作業療法 新版 三輪書店

作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学2 精神障害 協同医書出版

ひとと集団・場 ひとの集まりと場を利用する 第3版

予習復習のアドバイス

- ・事前に教科書、資料データを読んで、予習をすること。
- ・自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか、わかるまで聞くこと。それも、その時、その日のうちに。
- ・放置している時間が長ければ、それだけわからないことが増えてくる。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	発達過程作業療法評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	各時期の発達過程における作業療法評価法を理解する。				
	到達目標				
	(1) 乳幼児期の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解できた。				
	(2) 学童・青年期の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解できた。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	発達障害（発達過程】作業療法 理念・目的・発達年齢・発達障害	9	(1) 視覚機能機能障害の評価 EDPA・VPDT・TVPS
2	評価とは（障害像と全体像） 発達課題と遂行要素、ICF	10	ADL評価
3	全般的評価 JDDST-R	11	JASPER、摂食嚥下評価
4	全般的評価 遠城寺式乳幼児分析的発達検査	12	上肢機能障害の評価 EDPAとMAT（上肢）
5	姿勢反射検査 ミラニー発達検査	13	職業レディネス
6	運動機能障害の評価と障害像	14	社会的機能評価
7	粗大運動の評価（GMFM）	15	感覚統合障害・学習障害の評価 SCSIT・JMAP
8	微細運動の評価 上肢MAT、EDPA		

講義方法

座学と演習を行う。

成績評価方法

期末試験70%、課題20%、授業態度10%で評定します。

教科書

標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学

予習復習のアドバイス

人間発達学の教科書の内容を、何度も振り返ることによって知識の定着を図り、発達過程を覚える。k e y w o r dは、自分なりに調べて、理解をすること。自ら、関連する過去の国家試験問題を探し、解いてみる。分からない時には、即解決すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能作業療法評価学演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔 佐藤秀美 藤井貴	実務経験	矢野：医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務 佐藤：医療機関に作業療法士として9年勤務 藤井：医療機関（病院・訪問）7年、福祉機関（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	作業療法評価における臨床技能・態度について学び、模倣できる				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになるまで、主体的に指導を仰ぐことができる ・基本動作が一連の流れで模倣実施できる ・各種検査測定における必要な知識が備わっている ・各種検査測定が正確に模倣実施できる ・作業療法評価を一連の流れで実施できる 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション STEF & MFT 見学・模倣・実施	9	動作分析と介助方法 実施 寝返り、起き上がり
2	STEF & MFT 見学・模倣・実施	10	動作分析と介助方法 見学 トランスファーと車椅子の介助方法
3	感覚検査 見学・模倣・実施	11	動作分析と介助方法 模倣 トランスファーと車椅子の介助方法
4	バランス評価 見学・模倣・実施	12	動作分析と介助方法 実施 トランスファーと車椅子の介助方法
5	協調性検査 見学・模倣・実施	13	動作分析と介助方法 見学 歩行 階段昇降
6	片麻痺機能検査 BRS 見学・模倣・実施	14	動作分析と介助方法 模倣 歩行 階段昇降
7	動作分析と介助方法 見学 寝返り、起き上がり	15	動作分析と介助方法 実施 歩行 階段昇降
8	動作分析と介助方法 模倣 寝返り、起き上がり		

講義方法

見学（教員が手本）⇒模倣（学生と教員）⇒実施（学生主体）の順序で講義を進める

成績評価方法

実技テスト100%

教科書・参考書

PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 才藤栄一監修 金原出版

予習復習のアドバイス

自主練習を継続的に行う グループでの予習、復習を行う。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	高次脳機能作業療法評価学演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	高次脳機能障害の各症状を想定し、対象者の理解を深めるための評価を行える				
	到達目標				
	高次脳機能における各症状別の評価バッテリーの摘要が想定できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	高次脳機能障害に関する評価とは	5	注意機能に関する評価
2	失語に関する評価	6	記憶に関する評価
3	失行に関する評価	7	前頭葉機能に関する評価
4	失認に関する評価	8	全体のまとめ

講義方法

座学と演習を混ぜて実施します。実習着の着用は原則不要ですが、必要時は事前に指示をします

成績評価方法

試験と課題（7：3）にて評定します。演習の取り組み状況は課題点に加味されます

教科書 参考書

作業療法治療学5 「高次脳機能障害」 協同医書出版社

予習復習のアドバイス

時間内に取り組みが完了しない場合は、担当教員に申し出た上で近日中に演習を完了すること

講義要項（シラバス）

年 度	2022 年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	精神機能作業療法評価学演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	酒井良隆	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標 様々な評価手段とその手順を習得することが出来る。 精神障害領域における作業療法について、その実践過程を各種評価の演習によって体験できる				
	到達目標 精神機能作業療法における、様々な評価手段について理解した上で実践できる 作業療法における、基本的な視点と方法について理解した上で実践できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	観察①	5	各種評価方法の実践①
2	観察②	6	各種評価方法の実践②
3	作業面接①	7	評価の解釈①
4	作業面接②	8	評価の解釈②

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけでなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評価できない。

授業態度も評定の対象とする。（減点方式）

レポート作成（60%）、演習への取り組む姿勢（20%）、出席（20%）

教科書

標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版 医学書院

参考書

作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学 協同医書出版

精神障害と作業療法 新版 三輪書店

作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学2 精神障害 協同医書出版

ひとと集団・場 ひとの集まりと場を利用する 第3版

予習復習のアドバイス

- ・事前に教科書、資料データを読んで、予習をすること。
- ・自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか、わかるまで聞くこと。それも、その時、その日のうちに。
- ・放置している時間が長ければ、それだけわからないことが増えてくる。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	発達過程作業療法評価学演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	各時期の発達過程における作業療法評価法を理解する。				
	到達目標				
	(1) 乳幼児期の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解できた。				
	(2) 学童・青年期の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解できた。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	姿勢反射検査 ミラニー発達検査演習	5	ADL評価演習
2	粗大運動の評価（GMFM）演習	6	JASPER、摂食嚥下評価演習
3	微細運動の評価（上肢MAT、EDPA）演習	7	職業レディネス
4	視覚機能機能障害の評価（EDPA・DTVP演習）	8	感覚統合障害・学習障害の評価・SCSIT・JMAP

講義方法 座学と演習を行う。
成績評価方法 課題ならびに授業態度で評定します。
参考書 標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学
予習復習のアドバイス 人間発達学の教科書の内容を、何度も振り返ることによって知識の定着を図り、発達過程を覚える。key wordは、自分なりに調べて、理解をすること。自ら、関連する過去の国家試験問題を探し、解いてみる。分からない時には、即解決すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	高齢期作業療法評価学演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	藤井貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年、福祉機関（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標 高齢期での面接・観察・検査測定の意味を理解する。 対象者を理解するために行うべき評価が考察できる。				
	到達目標 学生が高齢期で行われる作業療法評価の具体的内容を説明できる。 学生が評価のために行う面接・観察・検査、測定を知ることができる。 学生が検査などで得られた情報から今後の治療にどう役立てていくかを整理できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	高齢期で行われる評価について		
2	高齢期評価の実際		
3	高齢期評価（面接）		
4	高齢期評価（観察）		
5	高齢期評価（観察）		
6	高齢期評価（MMSE・HDS-R）		
7	高齢期評価（COPM）		
8	評価結果の解釈		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

試験（50%）、課題（50%）で成績を評価する。また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、授業態度も評定の対象とする。

講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

教科書

高齢者のその人らしさを捉える作業療法、図解 作業療法技術ガイド第4版、作業療法評価学 第3版

参考書

標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学 医学書院

作業療法全書改訂第3版 老年期 協同医書出版

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	MTDLP	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	藤井貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年、福祉機関（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標 生活行為向上マネジメントを理解する。 生活行為向上マネジメントシートの活用ができる。				
	到達目標 学生が生活行為向上マネジメントの背景を知っている。 学生が生活行為向上マネジメントの軸となる考え方を理解できる。 学生が生活行為向上マネジメントのプロセスを理解できる。 学生が生活行為向上マネジメントシートの使い方を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	作業と生活行為		
2	生活行為向上マネジメント開発の背景		
3	生活行為向上マネジメントと作業療法		
4	生活行為向上マネジメントの使い方①		
5	生活行為向上マネジメントの使い方②		
6	生活行為向上マネジメントによる連携		
7	生活行為向上マネジメント事例①		
8	生活行為向上マネジメント事例②		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけでなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

試験（80%）、課題（20%）で成績を評価する。また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定出来ない。授業態度も評定の対象とする。

講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

教科書

事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 医歯薬出版株式会社

参考書

作業療法マニュアル66 生活行為向上マネジメント 改訂第3版

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能作業療法治療学Ⅰ (中枢)	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔 佐藤秀美	実務経験	矢野：医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務 佐藤：医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標 疾患に応じた機能回復メカニズム、機能的予後について説明できる。 疾患に応じた医学的治療と作業療法の関連について考察できる。				
	到達目標 学生が疾患に対する機能回復のメカニズムを理解できる。 学生が疾患における予後予測を立て、生活行為に関連付けられる。 学生が作業療法実施上のリスク管理の観点と医学的治療を知っている。 学生が基礎知識（解剖、運動、生理）を関連付けた医学的治療を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	脳血管疾患の作業療法①	11	神経・筋疾患/脊髄小脳変性症の作業療法① (ALS/MS/GBS)
2	脳血管疾患の作業療法②	12	神経・筋疾患/脊髄小脳変性症の作業療法② (ALS/MS/GBS)
3	脳血管疾患の作業療法③	13	神経・筋疾患/脊髄小脳変性症の作業療法③ (ALS/MS/GBS)
4	脳血管疾患の作業療法④	14	脊髄小脳変性症の作業療法①
5	脳血管疾患の作業療法⑤	15	脊髄小脳変性症の作業療法②
6	脳血管疾患の作業療法⑥		
7	頭部外傷の作業療法①		
8	パーキンソン病の作業療法①		
9	パーキンソン病の作業療法②		
10	パーキンソン病の作業療法③		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。
グループ学習を行う

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。
課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。
課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。
グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

試験（100%）で成績を評価する。
授業態度も評定の対象とする。（減点方式）
また適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする。

教科書

標準作業療法学 身体機能作業療法学第3版、図解 作業療法技術ガイド第4版

参考書

作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学1 身体障害
理学療法評価学 第4版 金原出版
リハビリテーション基礎評価学 第1版 羊土社

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。
- ・ipadを活用し、学習効果を高める。
- ・評価実習で活用できるよう知識、技術の蓄積を行う。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能作業療法治療学Ⅱ (整形)	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔 佐藤秀美	実務経験	矢野：医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務 佐藤：医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標 疾患に応じた機能回復メカニズム、機能的予後について説明できる。 疾患に応じた医学的治療と作業療法の関連について考察できる。				
	到達目標 学生が疾患に対する一機能回復のメカニズムを理解できる。 学生が疾患における予後予測を立て、生活行為に関連付けられる。 学生が作業療法実施上のリスク管理の観点と医学的治療を知っている。 学生が基礎知識（解剖、運動、生理）を関連付けた医学的治療を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	脊髄損傷の作業療法①	11	末梢神経疾患/慢性疼痛の作業療法①
2	脊髄損傷の作業療法②	12	末梢神経疾患/慢性疼痛の作業療法②
3	脊髄損傷の作業療法③	13	手の外科 作業療法①
4	脊髄損傷の作業療法④	14	手の外科 作業療法②
5	脊髄損傷の作業療法⑤	15	熱傷の作業療法
6	骨折の作業療法①		
7	骨折の作業療法②		
8	骨折の作業療法③		
9	関節リウマチの作業療法①		
10	関節リウマチの作業療法②		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布するのでファイリングして持参すること。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物、各検査器具

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

試験（100%）で成績を評価する。

授業態度も評定の対象とする。（減点方式）

また適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする。

教科書

標準作業療法学 身体機能作業療法学第3版、図解 作業療法技術ガイド第4版

参考書

作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学 1 身体障害

理学療法評価学 第4版 金原出版

リハビリテーション基礎評価学 第1版 羊土社

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。
- ・ipadを活用し、学習効果を高める。
- ・評価実習で活用できるよう知識、技術の蓄積を行う。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能作業療法治療学Ⅲ (内部)	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔 佐藤秀美	実務経験	矢野：医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務 佐藤：医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標 疾患に応じた機能回復メカニズム、機能的予後について説明できる。 疾患に応じた医学的治療と作業療法の関連について考察できる。				
	到達目標 学生が疾患に対する機能回復のメカニズムを理解できる。 学生が疾患における予後予測を立て、生活行為に関連付けられる。 学生が作業療法実施上のリスク管理の観点と医学的治療を知っている。 学生が基礎知識（解剖、運動、生理）を関連付けた医学的治療を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	心疾患の作業療法①	11	悪性腫瘍の作業療法②
2	心疾患の作業療法②	12	生活不活発の作業療法①
3	心疾患の作業療法③	13	生活不活発の作業療法②
4	呼吸器の作業療法①	14	喀痰吸引
5	呼吸器の作業療法②	15	喀痰吸引
6	呼吸器の作業療法③		
7	代謝疾患の作業療法①		
8	代謝疾患の作業療法②		
9	代謝疾患の作業療法③		
10	悪性腫瘍の作業療法①		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけでなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

試験（100%）で成績を評価する。

授業態度も評定の対象とする。（減点方式）

また適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする。

教科書標準作業療法学 身体機能作業療法学第3版、図解 作業療法技術ガイド第4版
理学療法評価学第4版(金原出版).リハビリテーション基礎評価学第1版(羊土社)

参考書

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。
- ・ipadを活用し、学習効果を高める。
- ・評価実習で活用できるよう知識、技術の蓄積を行う。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	高次脳機能作業療法治療学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	高次脳機能障害の作業療法における実践と事例からアプローチの仕方を学ぶ				
	到達目標				
	作業療法士が援助する高次脳機能障害者に対しての実践方法を身につけ、臨床実習や卒後業務に生かすことができる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	高次脳機能障害と作業療法 概要	9	機能障害別アプローチの実際 注意障害②～治療の実際～
2	高次脳機能障害の分類と類型 失語症①～失語症とは～	10	高次脳機能障害の分類と類型 半側空間無視①～半側空間無視とは～
3	機能障害別アプローチの実際 失語症②～治療の実際～	11	機能障害別アプローチの実際 半側空間無視②～治療の実際～
4	高次脳機能障害の分類と類型 失行①～失行とは～	12	高次脳機能障害の分類と類型 記憶障害①～記憶障害とは～
5	機能障害別アプローチの実際 失行②～治療の実際～	13	機能障害別アプローチの実際 記憶障害②～治療の実際～
6	高次脳機能障害の分類と類型 失認①～失認とは～	14	高次脳機能障害の分類と類型 遂行機能障害・前頭葉症状～遂行機能障害・前頭葉症状とは～
7	機能障害別アプローチの実際 失認②～治療の実際～	15	機能障害別アプローチの実際 遂行機能障害・前頭葉症状～治療の実際～
8	高次脳機能障害の分類と類型 注意障害①～注意障害とは～		

講義方法

座学講義形式

成績評価方法

試験点数を100%で評定します

教科書 参考書

作業療法治療学5 「高次脳機能障害」 協同医書出版社

項目ごとに授業資料があります、onedriveにアップするためその都度ダウンロードをお願い致します

予習復習のアドバイス

講義当日中に当該項目が理解されているかを振り返りましょう！

予習を行う場合は、教科書を何度も読むことをお勧めします

講義要項（シラバス）

年 度	2022 年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	精神機能作業療法治療学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	酒井良隆	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標 作業療法の基本的実践論から、疾患・障害別の作業療法の実際について理解する。 地域生活支援や司法精神医療、精神系作業療法に関連する理論・技法などを理解する。				
	到達目標 対象となる疾患の病理、障害像を理解し、作業療法の目的、留意点について理解する。 生活環境のアセスメントや支援の方法について理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	精神作用物質使用による 精神および行動の障害①	11	成人の人格および行動の障害①
2	精神作用物質使用による 精神および行動の障害②	12	成人の人格および行動の障害②
3	統合失調症、統合失調症型障害 および妄想性障害①	13	小児（児童）期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害
4	統合失調症、統合失調症型障害 および妄想性障害②	14	地域生活支援における作業療法
5	気分（感情）障害①	15	司法精神医療における作業療法
6	気分（感情）障害②		
7	神経症性障害、ストレス関連障害 および身体表現性障害①		
8	神経症性障害、ストレス関連障害 および身体表現性障害②		
9	生理的障害および身体的要因 に関連した行動症候群①		
10	生理的障害および身体的要因 に関連した行動症候群②		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

毎回の予習、講義後の復習を欠かさずやっていきましょう。

記憶力ではなく、感受性と理解力が重要です。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評価できない。

授業態度も評定の対象とする。（減点方式）

期末試験（80%）、出席（20%）

教科書

標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版 医学書院

参考書

作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学 協同医書出版

精神障害と作業療法 新版 三輪書店

作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学2 精神障害 協同医書出版

ひとと集団・場 ひとの集まりと場を利用する 第3版

予習復習のアドバイス

- ・事前に教科書、資料データを読んで、予習をすること。
 - ・自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか、わかるまで聞くこと。それも、その時、その日のうちに。
 - ・放置している時間が長ければ、それだけわからないことが増えてくる。
- 学習した内容について、必ず「なぜ?」「どうして?」という探求心をもつてのぞむこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	発達過程作業療法治療学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	運動発達系（心身障害）と精神障害系（知的障害、発達障害）の各疾患・障害における作業療法の評価を行い治療の過程を説明出来る				
	到達目標				
	精神心理系 【知的障害、小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害（広汎性発達障害、注意欠陥多動、学習障害を含む）、てんかん】 神経筋系【筋ジストロフィー】 運動発達系【脳性麻痺、二分脊椎、運動発達遅滞、重症心身障害（Down症を含む）】 上記疾患の作業療法過程を説明出来る。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	脳性麻痺	11	重症心身障害者
2	脳性麻痺	12	知的障害
3	摂食嚥下障害	13	知的障害
4	二分脊椎症	14	自閉スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder)
5	骨形成不全症	15	注意欠如・多動性障害 (Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)
6	内部障害（循環器）		
7	内部障害（循環器）		
8	小児がん（脳腫瘍含む）		
9	筋ジストロフィー症		
10	筋ジストロフィー症		

講義・実習方法

座学、課題演習

講義で使用する機器・教材

プロジェクター、ビデオ、Ipadを適宜使用する

履修上の注意事項**成績評価方法**

各疾患ごとの演習課題ならびに学期末試験にて総合評定を行う。

教科書

標準作業療法学 発達過程作業療法学 第3版

参考書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学第2版 理学療法学テキスト 小児理学療法学
メディカルビュー

予習復習のアドバイス

資料を事前配布しますので、その内容は必ず知識として定着してください。

key wordは、自分なりに調べてまとめる。自ら、関連する過去の国家試験問題を探し、解いてみること。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	高齢期作業療法治療学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	藤井貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年、福祉機関（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標 疾患に応じた作業療法アプローチ、機能的予後について説明できる。 疾患に応じた医学的治療と作業療法のプランを作成できる。				
	到達目標 学生が高齢期の一般的特徴を理解できる。 学生が高齢期に多い疾患における予後予測を立て、生活行為に関連付けられる。 学生が高齢期における、その人を知る視点を考察できる。 学生が作業療法実践過程を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	高齢期の一般的特徴その人らしい作業の捉えかた	11	高齢者のその人らしさを支える作業療法
2	高齢期に多い疾患	12	高齢期の作業療法（ケース検討）
3	高齢期に注意すること	13	高齢期の作業療法（ケース検討）
4	大切な作業を実現するための方法	14	高齢期の作業療法（外部講師）
5	その人の役割・生きがいを知る	15	高齢期の作業療法（外部講師）
6	その人の生活習慣を知る		
7	その人を取り巻く環境を知る		
8	その人の生活のバランスを知る		
9	作業療法介入アプローチの視点・治療理論 治療理論（MOHO, CMOP, ICF）		
10	高齢者に対する治療技法（治療構造） 治療技法（治療構造）		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

試験（100%）で成績を評価する。また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評価できない。

授業態度も評定の対象とする。

講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

教科書

高齢者のその人らしさを捉える作業療法 文光堂

参考書

標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学 医学書院

作業療法全書改訂第3版 老年期 協同医書出版

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	仕事関連活動実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	酒井 良隆	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	仕事に関する活動が持つ特性と人や環境に与える影響を考慮することができる 対象に応じた作業活動を通じた課題や段階設定を行うことができる				
	到達目標				
	世の中のさまざまな仕事について、理解を深め、対象者の仕事の理解に役立てる 対象者にとっての仕事関連活動の意味を理解し、提供することができる 仕事関連活動に取り組むことによる、心身機能への影響を分析できる				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	仕事関連活動とは	11	ライフステージにおける仕事関連活動 ～老年期①～		
2	仕事関連活動が人に与える影響について ～講義～	12	ライフステージにおける仕事関連活動 ～老年期②～		
3	仕事関連活動が人に与える影響について ～グループワーク①～	13	事例を通じた仕事関連活動の導入 ～講義～		
4	仕事関連活動が人に与える影響について ～グループワーク②～	14	事例を通じた仕事関連活動の導入 I ～グループワーク①～		
5	仕事関連活動が人に与える影響について ～プレゼンテーション①～	15	事例を通じた仕事関連活動の導入 I ～グループワーク②～		
6	仕事関連活動が人に与える影響について ～プレゼンテーション②～	16	事例を通じた仕事関連活動の導入 I ～プレゼンテーション①～		
7	仕事関連活動が人に与える影響について ～プレゼンテーション③～	17	事例を通じた仕事関連活動の導入 I ～プレゼンテーション②～		
8	ライフステージにおける仕事関連活動 ～幼児期・児童期～	18	事例を通じた仕事関連活動の導入 I ～プレゼンテーション③～		
9	ライフステージにおける仕事関連活動 ～青年期～	19	事例を通じた仕事関連活動の導入 II ～グループワーク①～		
10	ライフステージにおける仕事関連活動 ～成人期～	20	事例を通じた仕事関連活動の導入 II ～グループワーク②～		

21	事例を通じた仕事関連活動の導入Ⅱ ～プレゼンテーション①～		
22	事例を通じた仕事関連活動の導入Ⅱ ～プレゼンテーション②～		
23	事例を通じた仕事関連活動の導入Ⅱ ～プレゼンテーション③～		

講義・実習方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

毎回の予習、講義後の復習を欠かさずやっていきましょう。

記憶力ではなく、感受性と理解力が重要です。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評価できない。

授業態度も評定の対象とする。（減点方式）

プレゼンテーション（60%）、グループワーク（20%）、出席（20%）

教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学 第2版 医学書院

参考書

予習復習のアドバイス

学習した内容について、必ず「なぜ？」「どうして？」という探求心をもつてのぞむこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	余暇関連活動実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	酒井 良隆	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	余暇に関する活動が持つ特性と人や環境に与える影響を考慮することができる 対象に応じた作業活動を通じた課題や段階設定を行うことができる				
	到達目標				
	グループワークを実施する中で、集団の持つ特性を経験することができる 対象者にとっての余暇関連活動の意味を理解し、提供することができる 余暇活動に取り組むことによる、心身機能への影響を分析できる				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	余暇関連活動とは	11	ライフステージにおける余暇関連活動 ～老年期①～		
2	余暇関連活動が人に与える影響について ～講義～	12	ライフステージにおける余暇関連活動 ～老年期②～		
3	余暇関連活動が人に与える影響について ～グループワーク①～	13	事例を通じた余暇関連活動の導入 ～講義～		
4	余暇関連活動が人に与える影響について ～グループワーク②～	14	事例を通じた余暇関連活動の導入 I ～グループワーク①～		
5	余暇関連活動が人に与える影響について ～プレゼンテーション①～	15	事例を通じた余暇関連活動の導入 I ～グループワーク②～		
6	余暇関連活動が人に与える影響について ～プレゼンテーション②～	16	事例を通じた余暇関連活動の導入 I ～プレゼンテーション①～		
7	余暇関連活動が人に与える影響について ～プレゼンテーション③～	17	事例を通じた余暇関連活動の導入 I ～プレゼンテーション②～		
8	ライフステージにおける余暇関連活動 ～幼児期・児童期～	18	事例を通じた余暇関連活動の導入 I ～プレゼンテーション③～		
9	ライフステージにおける余暇関連活動 ～青年期～	19	事例を通じた余暇関連活動の導入 II ～グループワーク①～		
10	ライフステージにおける余暇関連活動 ～成人期～	20	事例を通じた余暇関連活動の導入 II ～グループワーク②～		

21	事例を通じた余暇関連活動の導入Ⅱ ～プレゼンテーション①～		
22	事例を通じた余暇関連活動の導入Ⅱ ～プレゼンテーション②～		
23	事例を通じた余暇関連活動の導入Ⅱ ～プレゼンテーション③～		

講義・実習方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

毎回の予習、講義後の復習を欠かさずやっていきましょう。

記憶力ではなく、感受性と理解力が重要です。

グループワークでの意見交換を意識する。

成績評価方法

出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評価できない。

授業態度も評定の対象とする。（減点方式）

プレゼンテーション（60%）、グループワーク（20%）、出席（20%）

教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学 第2版 医学書院

参考書

予習復習のアドバイス

学習した内容について、必ず「なぜ?」「どうして?」という探求心をもつてのぞむこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	代償学Ⅰ (スプリント・自助具)	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	対象とする障害像に合わせて使用する装具の、臨床での治療的適合方法や動作練習指導の方法を学習する。実習を通して、装具の臨床場面での適切な選択や適合、指導の方法を学習する。				
	到達目標				
	装具や自助具については、臨床場面で頻繁に活用されるものを中心に実際に作製し、製作技術を身につける。装具のチェックアウト技法を身につける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	装具とは	9	
2	自助具とは	10	
3	スプリント実習（掌側型カックアップスプリントの作製）① 型紙フィッティング、カッティング）	11	
4	スプリント実習（掌側型カックアップスプリントの作製）② （モールディング、加工）	12	
5	スプリント実習（掌側型カックアップスプリントの作製）③ （チェックアウトと修正）	13	
6	スプリント実習（短対立スプリント）①	14	
7	自助具とは、自助具の開発・作成 （グループ課題）	15	
8	自助具の開発・作成 （グループ課題）	16	

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

成績評価方法

学期末試験（50%）や出席率（20%）と併せて、実習では製作後のレポート提出（20%）と出来栄（10%）によって評定する。

教科書・参考書

リハビリテーション義肢装具学 メジカルビュー社

予習復習のアドバイス

事前に教科書を読んで、予習をすること。主に製作実習になるので、使用する道具の準備や後片付けはきちんと行う。怪我のないように細心の注意を払うこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	関連職種連携論Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野純子 他外来講師	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	リハビリテーション医療に関わる多くの職種の中で、作業療法士としての自身のキャリアを生かして、どのように働き、求められる人材となるかを学ぶ。セルフマネジメントの仕方を学習し、自身のキャリア形成と多職種や他業種との連携をどのようにすすめるかを演習を通して学ぶ。				
	到達目標				
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士としての役割を全うする（Role Contribution） 2. 関係性に働きかける（Facilitation Relationship） 3. 作業療法士としての自職種を省みる（Reflection） 4. 関連する他職種を理解する（Understanding for Others） 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション セルフマネジメント～ライフプランニング①		
2	セルフマネジメント～ライフプランニング②		
3	セルフマネジメント～キャリアアップについて		
4	他学科・多職種PBL		
5	他学科・多職種PBL		
6	他学科・多職種PBL		
7	他学科・多職種PBL		
8	まとめ		

講義方法 座学、演習（グループワーク）を行います。

成績評価方法

出席率授業態度、演習時のレポート等で総合的に評定を行う

教科書

特に使用しない。。参考図書は講義の際に、紹介します。

予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学年	3
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	Practical Communication Training II	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	酒井良隆、田邊 裕靖	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	臨床における対象者の目標を達成するために、対象者自身や家族、他職種とのより良い関係を保つ必要性を知り、その方法を修得する。積極的に対象者や家族、他職種と関わることで、信頼関係を気付くことの意味を理解する。				
	到達目標				
	対象者やその家族、他職種とのコミュニケーション技術を習得する。自身の強みを理解し、能動的な行動を習慣化出来るようにする。自身の行動計画を立てることが出来る。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション キャリアと選択 自身のキャリア（将来の生き方）を考える		
2	キャリアと選択 自身のキャリア（将来の生き方）を考える		
3	キャリアと選択 自身のキャリア（将来の生き方）を考える		
4	アントレプレナーシップを理解する		
5	行動計画を立てる		
6	振り返り		
7	振り返り		
8	振り返り		

講義方法 座学、演習を組み合わせで行う。
成績評価方法 授業態度、課題への取り組み状況、その成果発表などを通して総合的に評価する
教科書・参考書 特に使用しないが、適宜資料等を配布する。参考書として、PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド第2版を使用する。
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通 年	学 年	3年
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法特論Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年、福祉機関（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	第58回作業療法国家試験に合格できる知識を身に着ける。				
	到達目標				
	学生が国家試験に向けた学習を早期に身に着けられる。 学生が8月までに学内模試で120点をとる。 学生が12月までに学内模試で145点をとる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	国家試験オリエンテーション	9	医歯薬模試①（8月）
2	昨年度の実施状況説明	10	振り返りとグループワーク
3	学内模試①	11	学内模試④
4	振り返りとグループワーク	12	振り返りとグループワーク
5	学内模試②	13	三輪模試（秋）
6	振り返りとグループワーク	14	振り返りとグループワーク
7	学内模試③	15	学内模試⑤（12月 最終試験）
8	振り返りとグループワーク	16	

<p>講義方法</p> <p>計画的に国家試験合格に向けた模試を実施する。実施後、振り返りを行い知識の点検・更新を行う。 個人学習、グループ学習</p>
<p>成績評価方法</p> <p>医歯薬①で120点、学内模試⑤（最終試験）で145点をとる。2つの試験（目標値）で成績を評価する。 また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。 授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）</p>
<p>教科書</p> <p>1～3年で使用した全ての教科書（個人の参考書）</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <p>目標値が取れる学習を計画的に行う。（教員による面談有） 知識強化に向けて、疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。</p>

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法管理学Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	藤井 貴	実務経験	藤井：医療機関（病院・訪問）7年、福祉機関（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	作業療法におけるサービスマネジメントの特徴を理解する。 作業療法の役割と職域、諸制度を理解する。				
	到達目標				
	学生が作業療法の業務マネジメントを理解できる。（人・物・経済） 学生が作業療法部門の管理業務が理解できる。（人材育成も含む） 学生が作業療法士のキャリア開発について考えられる。				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	組織の成り立ちとマネジメント				
2	医療サービスマネジメント				
3	作業療法業務のマネジメント① 人・物・経済のマネジメント				
4	作業療法業務のマネジメント② 人・物・経済のマネジメント				
5	作業療法業務のマネジメント③ 人・物・経済のマネジメント				
6	作業療法業務のマネジメント 実践からの学び				
7	作業療法を取り巻く諸制度				
8	作業療法士のキャリア開発				
講義方法					
講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。 グループ学習					
成績評価方法 試験（80%）、課題（20%）で成績を評価する。 また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。 授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）					
教科書（参考書）					
作業療法管理学入門 医歯薬出版 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版					
予習復習のアドバイス					
教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。					

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	代償学Ⅱ（義肢）	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	対象とする障害像に合わせて使用する義肢の治療的適合方法や動作練習指導の方法を学習する。実習を通して、義肢の臨床場面での適切な選択や適合、治療的介入を行える技術を身につける。				
	到達目標				
	義肢についてはその特性について模擬義肢の装着などを通して理解を深める。義肢装具のチェックアウト技法を身に付ける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	義肢とは 義肢の歴史的背景		
2	義肢の構造理解		
3	義手の構成要素と機能について		
4	義手装着前訓練及び装着訓練について		
5	義手のチェックアウト（前腕義手）：実技演習 義手のチェックアウト（上腕義手）：実技演習		
6	義足の構成要素と機能について		
7	義足のチェックアウト：実技演習		
8	体幹装具について、まとめ		

講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。
成績評価方法 学期末試験や出席率授業態度、演習時のレポート等で総合的に評定を行う
教科書 リハビリテーション義肢装具学 メジカルビュー社
予習復習のアドバイス 事前に教科書を読んで、予習をすること。

講義要項（シラバス）

年 度	2022 年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	代償学Ⅲ（住環境・福祉用具）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	藤井貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年、福祉機関（通所介護）7年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標 対象者の生活を豊かにし、自立生活に用いる福祉用具について、その種類と機能、特性、選定、適合を学び理解する。医療・福祉制度を加味した住環境整備、実践例を把握する。				
	到達目標 学生が福祉用具の理論的な位置づけや評価の基本的方針を理解する。 学生が疾患別の福祉用具活用、具体的な選定・適合方法を学習する。 学生が住環境整備に必要な基本的な知識を把握し、実践で活用される技術を獲得する。 学生が障がいの特徴に合わせた住宅改修の考え方と作業療法士の役割を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	建築の基礎知識 ① 住宅改造	11	福祉用具活用の実際（外部講師）
2	建築の基礎知識 ② 住宅改造	12	福祉用具活用の実際（外部講師）
3	自宅を考える（全体）	13	福祉用具活用の実際（外部講師）
4	自宅を考える（アプローチ、玄関）	14	疾患別の福祉用具利用
5	自宅を考える（トイレ）	15	福祉用具展示会場見学（案）（仙台市シルバーセンター）
6	自宅を考える（浴室）		
7	住宅改造を考える。		
8	トータルマネジメント		
9	福祉用具適応論		
10	福祉用具の運用		

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

グループ学習

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

グループワークでの意見交換を意識する。

国家試験問題も関連して学習する。

成績評価方法

試験（100％）で成績を評価する。また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない

授業態度も評定の対象とする。

講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）

教科書

作業療法学全書改定第3版 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備 協同医書出版

参考書

作業療法学全書改定第3版作業療法技術学10 福祉用具の使い方・住環境整備

標準作業療法学 社会生活行為学 医学書院

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	地域作業療法学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	淀川裕美 佐藤秀美	実務経験	淀川：リハ専門病院3年、介護施設2年、訪問地域作業療法領域10年、作業療法士として勤務 佐藤：医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	地域リハビリテーションの概要を理解し作業療法に展開できる知識を得る				
	到達目標				
	地域作業療法の概要をふまえ、臨床の場で地域リハにおいて作業療法が担う役割を理解している				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	地域リハビリテーションとは	9	予防・ヘルスプロモーションについて
2	地域作業療法とは	10	予防・ヘルスプロモーションについて
3	地域作業療法における制度	11	実践事例
4	社会生活支援・連携について	12	実践事例
5	地域作業療法の枠組み	13	実践事例
6	個別支援について・集団支援・地域づくり	14	実践事例
7	地域包括ケアシステムについて	15	まとめ
8	地域包括ケアシステムについて		

講義方法 座学講義形式
成績評価方法 ・履修内容に関する確認テスト（100点満点）を実施し、評定の8割分とする ・出席状況及び履修態度を合わせて2割分とする
教科書 参考書 標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第3版
予習復習のアドバイス 介護保険制度や地域包括ケアシステム等、他の科目でも関連する内容が含まれます 教科書全般を一読頂くことをおすすめします

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	就労支援関連法規論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野 純子 酒井 良隆	実務経験	上遠野：医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務 酒井：医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	人にとっての就労の意義を探り、障害者の就労について考える				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の就労援助体制の現状を認識する ・ 職業リハビリテーションにおける作業療法の意義と役割について理解を深める 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	9	身体障害における就労支援
2	人と職業	10	高次脳機能障害における就労支援
3	人の職業的発達	11	職業リハビリテーションにおける作業療法の意義と役割
4	障害者の就労	12	障害者職業センターにおける就労支援の実際
5	職業リハビリテーション	13	ハローワークにおける就労支援の実際
6	障害者の就労援助体制の現状	14	就労移行支援事業所における就労支援の実際
7	精神障害における就労支援	15	就労継続支援事業所A・B型 就労支援の実際
8	知的障害における就労支援	16	

講義方法

講義内容により、外部演習、講義のスタイルをとる

成績評価方法

学期末試験（100％）にて成績を評価する

教科書・参考書

作業療法学全書改定第3版 作業療法技術学4 職業関連活動 協同医書出版

予習復習のアドバイス

- ・事前に教科書を読んで、予習をすること。
- ・わからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか、わかるまで聞く。